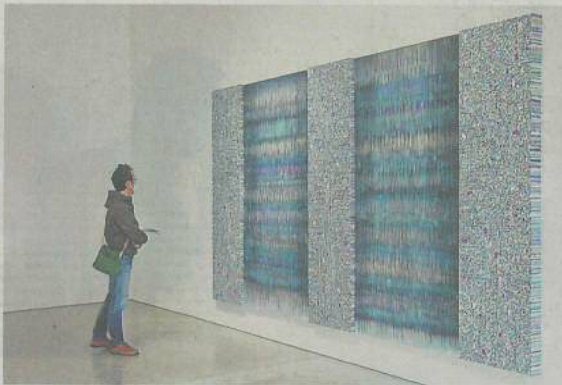


布が持つ根源的な力

福本繁樹さん、潮子さん展覧会

ACAC



青森市台子沢の青森公立
大学国際芸術センター青森
(ACAC)で、染色家・
福本繁樹さん、藍染め美術
家・福本潮子さん、二人
の創作の原点となったオセ
アニア地方の民族美術にス
現する布が開かれている。

6月18日まで。

繁樹さん、潮子さんはと
もに京都府を拠点に活動。

1960年代から南太平洋
の民族美術を採集してきた
経歴を基に、日本ならではの
布や染色を用いた美術表
現を追究している。

展覧会は、二人が収集し
たオセアニア地方の貴重な
布と、繁樹さん、潮子さん
それぞれの作品群で構成。
細く長いギャラリーAで、
まず目に飛び込んでくるの

【写真上】古布と染めをカラー
ージュした福本潮子さんの作品
(手前)などが並ぶ「発現する
布」展。奥の壁一面に展示され
ているのは樹皮布「タパ」
【同下】独自の染めと布象嵌を
組み合わせた福本繁樹さんの
「すっちゃんちゃがら」

は、パプアニューギニアの
樹皮布「タパ」139点と、
バヌアツの布貨幣「パンダ
ヌス布」30枚。左右の壁面
を覆うようにびっしりと並
んだ手仕事の数々が、圧倒
的な存在感を放つ。

その先に並ぶ潮子さんの
作品は、日本の古布と、藍
染めで表現した大小さまざ
まな白い点を星座に見立て
てカラーージュした「銀河」
のシリーズ。県内で入手
した襦袢を使った2作品
や、青森の春の星空を表現
した「北斗」も紹介してい
る。

ギャラリーBでは、柳田
国男が津軽地方で採集した
民話から着想したという繁
樹さんの新作「すっちゃん
ちゃがら」「ちゃんちゃが
ら」などを展示している。
染料の躍動を自然に写し取
る独自の染色法と、布の細

片を貼り合わせた「布象
嵌」の大胆な組み合わせが
目を引く。

初日の15日はACACで
アーティストトークが開か
れ、繁樹さん、潮子さんが
作品を解説。「布はインテ
リアや衣服と結びつけら
れ、そこで終わってしまう
ことが多いが、本来はもっ
と人々を強く結びつけるも
のだったはず。今回の展示
は、布という表現方法を持
つ根源的な力を見直す機会
になる」と語った。

同展は入場無料。5月13
日は潮子さんと秋田公立美
術大学の佐治ゆかり教授の
対談、同14日は繁樹さんの
「布象嵌」ワークショップ
(定員15人)などを開く。
申し込み、問い合わせはA
CAC(電話017・76
4・5200)へ。

(沼田典子)